



教授の呟き

第73回

生活のためのロジスティクス

東京海洋大学教授
苦瀬博仁

●●ビジネスからみた ●●ロジスティクス

約20年前、国際学会に参加したときのことである。西欧の研究者から、「あなたが研究しているロジスティクスは、ミリタリーか、ビジネスか」と聞かれ、ビックリしたことがあった。しかし、兵站（へいたん）というようにロジスティクスそのものがもともと軍事用語だったのだから、それほど不思議なことではない。

米国には、軍事や災害のロジスティクスも扱うSOLE(The International Society of Logistics)と、ビジネス中心のCSCMP(Council of Supply Chain Management Professionals)の2つのグループがある。

しかしわが国では、歴史的背景もあってビジネス・ロジスティクスが主流である。「安く調達し、安く造り、安く運ぶこと」と「付加価値を高めること」が、ロジスティクスの大きな目標であった。そして、発荷主の責任で着荷主に届けることが一般的な、日本の商慣行のもとで、発荷主や運輸事業者による効率的なロジスティクスの実現が、話題の中心だったように思う。

つまり長い間、産業活動からみた「生産と供給の論理」が強かったのである。

●●生産と供給から ●●生活のロジスティクスへ

さまざまな定義のあるロジスティ

クスであるが、平易な定義の1つに、「生産から流通を経て消費までの間で、製品や物資の管理を行うこと」がある。しかし、生産と供給の論理でロジスティクスを考えていると、つい消費段階を忘れがちになる。

一方でCSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)の視点で考えてみるならば、商品の最終到着地である消費者を無視しては、ロジスティクスの改善も難しいだろう。同時に、生活者の利便性や安心・安全を考えると、より生活に密着したロジスティクスがあっても良いはずだ。

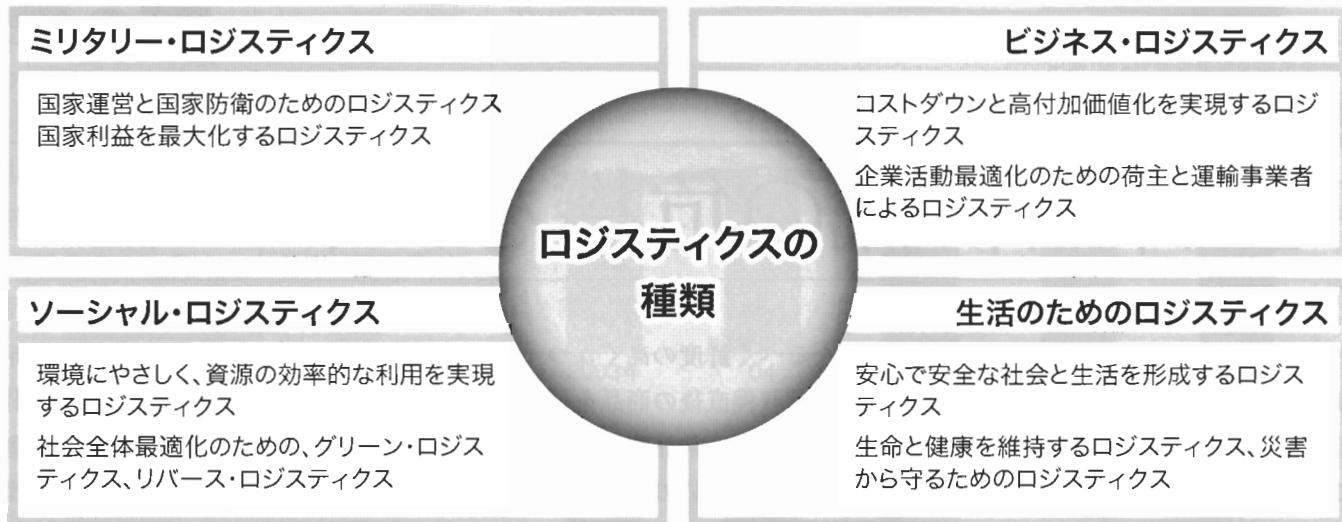
●●生活のための ●●ロジスティクスの例

人々の生活を支えるためのロジスティクスの例は、いくつもある。

東北地方のある無医村では、病気になる隣接市町村の病院に行かなければならないが、バスが不便で通院は1日がかかりとなる。このため生活習慣病の患者に限って、テレビ電話を使って遠隔医療をしたのちに、薬局と連携して薬を用意し、最終的には郵便局員が薬を患者に届けている。

同じように生活習慣病の患者に、療養食を届けるサービスもある。自宅で療養中の患者にとって、病態にあわせてカロリーや塩分を抑えた食事を作ることは神経を使うことだろう。成分を制限した療養食の宅配サービスが、普及しつつある。

本やCDなどの宅配、生協による



食料品の宅配などは、すでに定着している。スーパーやコンビニでは、店舗の商品の宅配も始まっている。大都市には、地震災害に備えた免震構造で、さまざまなサービスを提供するコンシェルジュ常駐の高層マンションもある。

こうしてみると、すでに生活密着型の新しいロジスティクス・サービスが花開きつつあることを実感できる。

●●安心・安全のための
●●生活密着型ロジスティクス

本格的な少子高齢化社会を迎えて、また安心・安全が話題になるにつれて、ロジスティクスの役割も少しずつ変わっていくことだろう。働き盛りが多く住む大都市や高齢者が多く住む中山間地の生活の中で、生命と健康を維持し安心・安全を保証するロジスティクスがあっても良い。

前述の無医村の例では、郵便局員

が各戸を回りながら患者の安否も確認している。また、食品の安全性が危ぶまれている今日、信頼できる会社から宅配される療養食は、患者にとって安心感が増すことだろう。

だからこそ、これからは「生産と供給のロジスティクス」に加えて、生命や健康の維持を含め安心・安全を保証する「生活のロジスティクス」に注目したい。人々の生活を守るとなれば、ビジネス・ロジスティクスとは少しばかり趣が異なるかもしれ

ないし、軍事や災害に対処するロジスティクスと似ている点もあるだろう。

生活のためのロジスティクスを考えることは、次世代のロジスティクスを展望し、新たなビジネスチャンスを探すことでもあると思うのである。

- (1) 苦瀬：「安心・安全を満たすロジスティクス」、教授の呟き第37回、流通設計21、第37巻1号、pp50-51、2006年
- (2) 苦瀬：「ロジスティクスのブランド化」、教授の呟き第61回、流通設計21、第39巻1号、pp70-71、2008年

Profile



東京海洋大学 海洋工学部
流通情報工学科 教授

苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により東京海洋大学、副学部長、評議員、流通情報工学科長を経て現職。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授(併任)。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂)、「都市の物流マネジメント」(勁草書房) <http://www2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/>

